

海外エコツーリズム実習（インドネシア）

研修先について

インドネシアでは、パーム油を生産するために、広大な熱帯林が伐採され、野生生物の減少、農薬による水質汚染など深刻な環境問題が起きています。熱帯林が破壊される原因は、おもに農村の貧困です。違法伐採やパーム農園に依存しなくても、住民が森と共生しながら収入を得られる方法として「エコツーリズム」や「アグロフォレストリー」、「フェアトレード」が注目されているのです。インドネシアの様々な食文化や世界遺産にもふれて、熱気あふれる発展途上国の今を体感してみませんか？



研修プログラム概要

行き先	インドネシア
時期	春期休暇中
日数	11日間
費用	約18万円
滞在	ホテル、民泊

研修の様子



村のホームステイでは、家の方々はあたたかく出迎えてくださり、アットホームな雰囲気です。とても居心地がよかったです。



ジャカルタで伝統織物、バティックの染色体験ができます。バティックは世界無形文化遺産にも登録され、インドネシアを訪れる観光客からもお土産として人気です。

スケジュール（例）

DAY1	出発、ジャカルタ着
DAY2	西ジャワ州マラサリ村に移動
DAY3-5	ヤシ砂糖の生産現場の見学、農業体験、教育現場（小学校）の視察、等 ジャカルタへ移動
DAY6-10	ガジヤマダ大学訪問、廃棄物対策の「ゴミ銀行」見学、伝統染物バティック体験 ポロブドゥール遺跡（仏教）、マルピ山噴火復興支援村の訪問、等
DAY11	帰国

学生の体験談

ジャングルの中では多くの野生の動植物が生息し、ワウワテナガザル（絶滅危惧種）の親子の姿を目にすることができました。食用植物や薬草を口にしたり、有毒な木や珍しい花を観察したりした。また、アグロフォレストリー（森の再生と農作物の収穫を両立させる複合経営）の見学では、さまざまな熱帯の果物（ドリアン、マンゴスチン、パパイヤ等）、さらには日本でもなじみのある香辛料（バニラ、シナモン、コショウ等）の木々を教えていただき、驚きの連続でした。発展途上国での持続的な産業の意義は大きく、生産者も自然環境も大事する取り組みを応援したいです。